富士生命

Hello! FUJISEI

No.22

あなたにとって怖い病気は「がん」？

29年連続で第１位！死亡率も上昇の一途

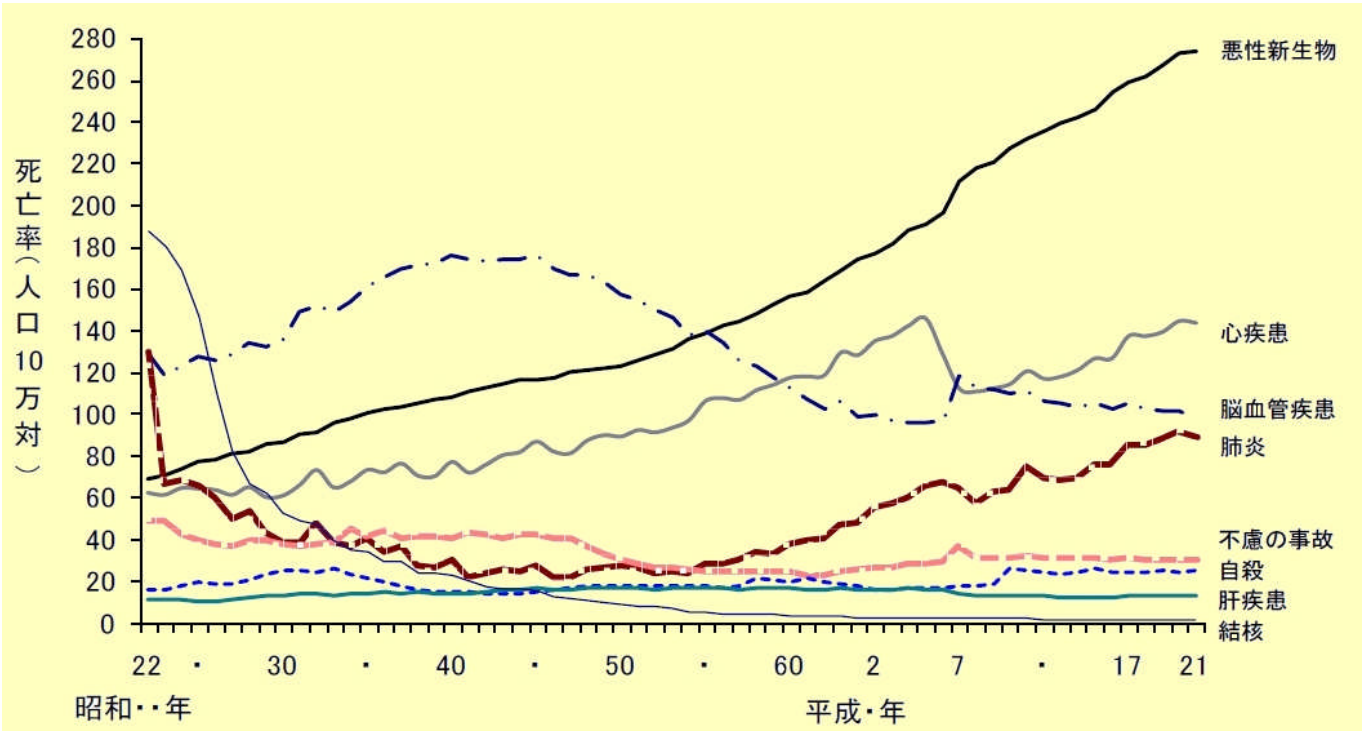
「あなたにとって怖い病気とは何ですか？」と尋ねられたら、ほとんどの方が「がん」と答えられるではないでしょうか。それほど、怖い病気としてのがんのイメージは定着しています。昭和56年から29年連続して死因の第１位を続けて、死亡率も上昇の一途です。

明治から昭和初期まで肺炎、結核、胃腸炎などの感染性疾患が多かったのですが、戦後は急速に減少し、かわってがん（悪性新生物）、心臓病、脳血管疾患などのいわゆる生活習慣病による死亡が上位を占めるようになってきました。

厚生労働省の「平成21年人口動態統計月報年計（概数）」によると、平成21年中の死亡者数は114万1920人で、前年の114万2407人より487人減少しています。

しかし、がんによる死亡者数は平成13年に30万人を突破し、平成21年も34万3954人と前年より6391人増加しています。死亡率（人口10万対）は273.4で、平成21年の全死亡者に占める割合は30.1%でした。約３人に１人はがんで亡くなっている計算になります。

なお、第２位は心疾患（心臓病）です。昭和60年に脳血管疾患にかわり第２位となり、平成21年は前年より減少しましたが、死亡数・死亡率ともに上昇傾向を示しています。第３位の脳血管疾患(脳卒中)は、昭和26年に結核にかわって第１位となりましたが、昭和45年をピークに低下し始め、昭和56年には悪性新生物にかわり第２位に、さらに、昭和60年には心疾患にかわり第３位となり、その後も死亡数・死亡率ともに低下を続けています。

主な死因別にみた死亡率の年次推移

（厚生労働省「平成21年 人口動態統計月報年計（概数）」より）